



中春別小学校  
学校便り

窓

第3号

発行責任者 校長 若松 正  
令和5年5月31日発行

## 全力で 光輝け！ 中春っ子

いも植えや遠足など、全校児童が4つの団に分かれて取り組む学団の活動が活発に行われている様子に、学校が生き生きと動き出しているのを感じることでできた5月でした。

6年生が中心となり、集合などの指示を出したり、活動の説明をしたり、低学年に手を貸してあげたりなど全校を引っ張っている場面をよく目にしました。また5年生より下の学年はそれぞれの立場で自分たちができることに力を入れていました。そして学年が上がるにつれ、リーダーシップを発揮する6年生の姿にいつかの自分たちの姿を重ね合わせながら取り組んでいるように感じました。

“全校が一丸となる”といえ、来月11日に予定している運動会に向け、今月中旬から体育の時間に練習が始まりました。はじめはチーム分けの参考にするための短距離走にはじまり、リレーや道具を使った種目の練習へと進み、少しずつ熱を帯びてきています。そして特別時間割期間に入った今週は、朝の活動時間に全校で応援練習を行ったり、大玉転がしやリレー、よさこいなど低学年・高学年にわかれて行う種目の練習が始まったりと、運動会に向けての動きが本格的になってきたことを感じます。

全校や3学年ごとのように異学年が一緒に行う練習の良さは、競技の技能を高めたり、仲間との協働を通して協調性を育んだりすることに合わせ、上の学年は下の学年に教えたり、下の学年はいつかの自分の姿を上級の学年の背中に見たりと、様々な点で成長につながるところにあります。

たとえばよさこいでは、初めて経験する4年生に対し6年生が中心になり、5年生がサポート役として踊りを創り上げていきます。自信を持って下の学年に教える6年生たちも、去年や一昨年から、“いつかは自分たちが”という気持ちをもって練習に臨んでいたからこそ、“自分たちが教える立場”になった今、自信を持って下の学年の前に立つことができているのだと思います。また低学年の練習を観ていても、3年生が1、2年生にコツをアドバイスしてあげていたり、1、2年生だけのときは2年生が1年生に教えてあげていたりするのを見かけます。全ての学年が、今年の立場をしっかりと自覚し、今できることに全力で取り組み、一つひとつの経験を成長へとつなげているのだと思います。

話はそれますが、よさこいの練習を観ていて去年と違う勢いを感じました。今までの伝統のスタイルを引き継ぎながら、新しいフォーメーションや動きを加えてきていることでもあります。違うと感じたのはみんなが声を合わせた“掛け声(歌)”の力だと感じました。それは息の合った掛け声がみんなの心をついにし、互いの力を高め合うからなのだと思います。昨年の今ごろはまだコロナ禍の只中で、練習のみならず本番でもマスクをつけ声を出さずに演舞してもらわなければなりません。けれども今年は思う存分声を出すことができます。まだ練習が始まったばかりで、法被も羽織らず鳴子も手にしていない段階ですが、すでに勢いを感じます。運動会本番の演舞がとても楽しみです。

学団の動き、勇ましい掛け声。本来の学校らしさを取り戻してきていることを感じるこの頃。

花も散り、赤みがかかった葉桜も気づけばすっかりと新緑の青。ビニールハウスの苗や教室の鉢植えの野菜がすくすく伸びる様。遠足で見かけた橋の下の水面を横切る無数の魚影。夏日はまだ数えるほどしかないものの日毎増す日差しの強さ。どうぞお体にご留意いただければと存じます。